

2025 年 フォーラム・ポーランド会議

ショパン国際ピアノコンクール 100 周年をひかえて

日 時： 2025 年 11 月 22 日（土）9:30～15:40
場 所： 駐日ポーランド共和国大使館タデウシュ・ロメル ホール
主 催： フォーラム・ポーランド
協 力： 駐日ポーランド共和国大使館、ポーランド広報文化センター
人 数： 先着 80 名 すでに収容上限人数に達しましたので、募集・登録を締め切りました。
*お弁当付き参加希望者は 11 月 10 日（水）までに申込・払込をお願いします。
言 語： 日本語
参加費： 一般…3,000 円（お弁当付き）／2,000 円（お弁当なし）
学生…2,000 円（お弁当付き）／1,000 円（お弁当なし）

ポーランドを代表する音楽家フリデリク・ショパンの名を冠した「ショパン国際ピアノコンクール」は、1927 年に開始して以来、世界の音楽文化において比類なき存在感を放ってきました。若きピアニストたちがこの舞台で腕を競い、ショパン解釈の新たな地平を切り開くことは、単なる音楽的成果にとどまらず、時代ごとの文化的・社会的潮流をも映し出してきました。2027 年には創設 100 周年を迎えるこのコンクールは、その歴史的意義と未来的展望を考える格好の契機となっています。

本年度のフォーラム・ポーランドは、この記念すべき 100 周年を目前に控えた現在の時点から、コンクールとショパン音楽、ポーランドの音楽を多角的に見つめ直す場を設けます。創設以来の歴史的変遷をたどり、音楽解釈や審査の基準、国際的な位置づけがどのように変化してきたのか、ショパンの音楽が日本においてどのように受容されてきたのか、その教育的・演奏史的側面を明らかにします。さらに、ショパンが打ち立てた独自のジャンルであるマズルカをめぐる解釈や表現の可能性についても議論を深め、ショパン音楽の核心に迫ります。

加えて、近年顕著となっているアジア、とりわけ中国や日本のピアニストたちの台頭も重要なテーマです。ショパン・コンクールが世界的に果たしてきた役割は、ヨーロッパ音楽史の枠を超えて、国際的な音楽交流の場としての意義を増しています。2025 年のコンクールの成果を総評しつつ、アジアの演奏家たちがどのようにショパンの音楽を解釈し、世界に発信しているのか、その文化的背景を共有し議論します。

本企画を通じて、ショパン音楽の普遍性と多様性を再確認するとともに、次なる百年を展望する新たな知的地平を拓くことを目指します。

プログラム

9:10 受付開始

9:30～ 9:35 開会の辞： 白木太一（フォーラム・ポーランド副代表、大正大学名誉教授）

9:35～ 9:45 歓迎の挨拶：パヴェウ・ミレフスキ（駐日ポーランド共和国特命全権大使）

9:45～ 9:50 記念撮影

午前の部 9:50～10:40

9:50～10:40 青柳いづみこ（ピアニスト、文筆家、大阪音楽大学名誉教授）「2025 年ショパン国際ピアノコンクールを振り返って」

10:40～11:30 多田純一（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター客員研究員）「日本におけるショパン受容 ―初期のショパン・コンクールは日本でどのように報じられたのか―」

11:30～12:40 昼食、休憩

午後の部： 12:40～15:30

12:40～13:40 飯島聡史（ピアニスト、フォルテピアニスト、音楽学者）「ショパン演奏におけるテンポ・ルバートの再考 ―「楽譜通り」の演奏とは？―」

13:40～14:40 楠原祥子（ピアニスト、桐朋学園大学音楽部特任講師）「ショパンのマズルカ ―真髄探しの時代を経て自分のマズルカを奏でるに至る―」

14:40～15:00 ティータイム

舞踏公演 15:00～15:20

Tokio na zdrowie

「ヴァルツ～ポルカマズルカ」ショパン / ワルツ Op.64-2 ～ マズルカ / Op. 7-1

「ヤン・トウホのクラコヴィアク」ショパン / 演奏会用ロンド Op.14 よりクラコヴィアク

「ヤン・トウホのハルカのマズール」モニューシュコ/歌劇"ハルカ"よりマズル

（＊ヤン・トウホは振付師）

15:20～15:30 閉会の辞 ウルシュラ・オスミツカ（ポーランド広報文化センター所長・参事官）

登壇者紹介

パヴェウ・ミレフスキ (Paweł Milewski) 駐日ポーランド共和国特命全権大使



1975年生まれ。1999年アダム・ミツキエヴィチ大学にて中国学修士号を取得後、1996年より首都師範大学（中国）、続いて1997年より廈門大学（中国）に留学。2003年ワルシャワ経済大学国際経済研究室研究課程（PG Dip）修了。1999年ポーランド共和国外務省入省。2000年よりアタッシュ、三等書記官としてアジア・太平洋局にてアジア・太平洋諸国問題に従事。2003年から2009年にかけて駐中華人民共和国ポーランド共和国大使館にて二等書記官、一等書記官、参事官として勤務。2009年よりポーランド共和国外務省アジア・太平洋局 東アジア・太平洋課長、2011年よりアジア・太平洋局副局長を務める。2013年に駐オーストラリア・ポーランド共和国大使に就任する。この間、駐パプアニューギニア・ポーランド共和国大使を兼任。2017年ポーランド共和国外務省アジア・太平洋局局長に就任。2019年10月に駐日ポーランド共和国大使として来日。

ウルシュラ・オスミツカ (Urszula Osmycka) ポーランド広報文化センター所長・参事官



ワルシャワ大学日本学科卒業、専門は近現代日本史。1999年、文部省在外研修員として鹿児島大学で1年間日本語・日本文化研修、2002～2006年、九州大学法学部で学び、修士号（政治学）を取得。帰国後、在ワルシャワエジプト大使館、在ワルシャワ日本国大使館などに勤務。2009年、外務省のアジア・太平洋局に勤務。2011年、日ポ外交官交流プログラムに参加し、外務省欧州課でのインターンシップを修了。2012～2018年、駐日ポーランド大使館政治経済部で政治・報道問題、広報文化外交のプロジェクトを担当。2018年8月より、外務省大臣官房参事官。2021年9月、東京のポーランド広報文化センター長に就任。英語、日本語、フランス語に堪能。

青柳いづみこ（ピアニスト、文筆家、大阪音楽大学名誉教授）



安川加壽子、ピエール・バルビゼの各氏に師事。マルセイユ音楽院首席卒業、東京藝術大学大学院博士課程修了。学術博士。平成2年度文化庁芸術祭賞。演奏と文筆を兼ね、著作は35点、CDは26枚。21枚のCDが『レコード芸術』特選盤となるほか、師安川加壽子の評伝『翼のはえた指』で吉田秀和賞、祖父青柳瑞穂の評伝『真贋のあわいに』で日本エッセイストクラブ賞、ミステリー・エッセイ『6本指のゴルトベルク』で講談社エッセイ賞、CD『ロマンティック・ドビュッシー』でミュージックペンクラブ音楽賞。近著に『ショパン・コン

クール見聞録』(集英社新書)、『パリの音楽サロン ベル・エポックから狂乱の時代まで』(岩波新書)。2025年はサティ没後100年記念して『ドビュッシーとサティ どちらが先駆者か』(春秋社)、CD『逃げ出させる歌 ピアノ独奏と連弾によるエリック・サティ選集』(ALM)刊行。日本演奏連盟、日本ショパン協会理事、大阪音楽大学名誉教授。兵庫県養父市芸術監督。HP:<https://ondine-i.net>

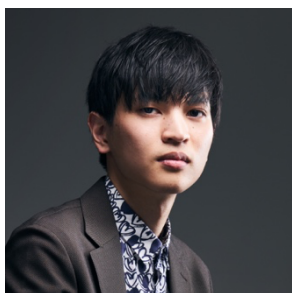
多田純一 (Junichi Tada) 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター客員研究員



1972年大阪府堺市生まれ。大阪芸術大学大学院芸術研究科博士後期課程修了、博士号(芸術文化学)を取得。音楽学を芹澤尚子、前川陽郁、ピアノを藤井美津子、安部ありか、前田則子の各氏に師事。著書『日本人とショパン 洋楽導入期のピアノ音楽』(アルテスパブリッシング)、『日本初のショパン弾き澤田柳吉』(春秋社)、共著『「バイエル」原典探訪 知られざる自筆譜・初版譜の諸相』(音楽之友社)、CD『我が国最初の「ショパン弾き」澤田柳吉の世界～作品篇・演奏篇～』

(監修および演奏、解説・ミッテンヴァルト)、『澤田柳吉の芸術 ピアノ・ロール&SP レコード 日本録音集』(サクラフォン)を出版。「ショパンー200年の肖像」展にて「日本におけるショパン受容」を担当(神戸新聞社、サンテレビジョン)。主な論文として‘Chopin in Japan: From Ongaku Torishirabe Gakari to Forest of Piano’ The Chopin Review Vol.4-5, Narodowy Instytut Fryderyka Chopina (pp.118-153) など。

飯島聡史 (Satoshi Iijima) ピアニスト、フォルテピアニスト、音楽学者



国立音楽大学大学院音楽研究科修士課程を首席で修了。修了時、最優秀賞及びクロイツァー記念賞を受賞。その後、同大学大学院音楽研究科博士後期課程において博士号(音楽)を取得。活動はモダンピアノに留まらず、フォルテピアニストとしても活躍し、第2回ショパン国際ピリオド楽器コンクール(ワルシャワ)での演奏は審査員であるトビアス・コッホ氏から「特別な何かを持っていた」と評される。また、研究活動としては、ショパンや音楽教育に関する学術論文、事典等、多数執筆。

このような演奏及び研究活動は高い評価を受け、日本学術振興会科学研究費助成事業や(公財)戸部眞紀財団研究助成事業における研究代表者としても採択される。国立音楽大学大学院音楽研究科非常勤助教、広島文化学園大学学芸学部音楽学科専任講師を経て、現在埼玉学園大学人間学部専任講師。

楠原祥子（Shoko Kusahara）ピアニスト、桐朋学園大学音楽部特任講師



桐朋学園大学音楽部ピアノ専攻卒業、ポーランド国立ショパン音楽大学研究課程に留学、バルバラ・ヘッセ=ブコフスカに師事。1987年ベラ・シキピアノコンクール第1位。2025年まで桐朋学園大学音楽部特任講師。2025年1月ショパンマズルカ全55曲2枚組CDをリリース。音楽の友3月号で「各曲の特質を浮き彫りにした逸品」と注目版に取り上げられている。2021年リリースの『ショパンワルツ集』CDは読売新聞推薦盤。日本とヨーロッパで演奏活動を展開。日本各地での公演、レクチャー、日本ショパン協会主催ショパンフェスティバルin表参道、銀座ヤマハホール、千葉市主催リサイタルなど。ショパン作品の他シマノフスキ、パデレフスキ、ザレンプスキなどポーランド作品の演奏が高く評価されている。ポーランドでは、ワジェンキ公園日曜コンサート、ショパンの生家、グダンスク、ルブリンなどでリサイタルをおこなった。『ブスコショパン国際ピアノ音楽祭〜夏をショパンと』には2002年から毎夏レギュラーソリストとして招聘を受けている。エキエル校訂ナショナルエディション日本語版ショパン バラードを翻訳、全音より発売。アダム・ザモイスキ著「ショパン プリンス・オブ・ロマンティクス」は大西直樹・楠原祥子共訳で音楽之友社より発売。10月のショパン国際コンクールファイナルのレビューを音楽雑誌『ショパン〜コンクール特集号』に執筆。また今回のショパン国際コンクールには『ブコフスカ賞』寄贈者の一人として寄付をしている。

Tokio na zdrowie

「Tokio na zdrowie」は関東でポーランドの踊りを踊っているグループです。京都大学民族舞踊研究会（KVK）のOBOGを中心に、関東のフォークダンスサークルの学生・若手OBOGと一緒に練習に励んでおり、ポーランドの踊りのおもしろさ素晴らしさを体感し、観て感じていただくため活動しています。

”na zdrowie”と言えば”乾杯”ということで適度にお酒を楽しむとともに、文字通り健康のためにこれからも踊り続けます。



プログラム作成、会議録編集チーム

田口雅弘（Masahiro Taguchi） フォーラム・ポーランド代表、環太平洋大学教授



1956年生まれ。環太平洋大学経済経営学部教授、岡山大学名誉教授。専門は、現代ポーランド経済史、ポーランド経済政策論。1984年、ワルシャワ中央計画統計大学（SGPiS＝現在のワルシャワ経済大学）経済学修士学位取得卒業。1988年、京都大学大学院経済学研究科博士課程後期単位取得退学（京都大学博士）。その後、岡山大学経済学部教授、ハーバード大学ヨーロッパ研究センター(CES)客員研究員、

ポーランド科学アカデミー(PAN)客員教授、ポーランド科学アカデミー(PAN)客員教授、ワルシャワ経済大学正教授、岡山大学学術研究院社会文化科学学域教授等を歴任。主要著書：『ポーランド体制転換論 システム崩壊と生成の政治経済学』（御茶の水書房、2005年）、『現代ポーランド経済発展論 成長と危機の政治経済学』（岡山大学経済学部、2013年）、*On the Identity of Poles.*（ed., Fukuro Shuppan, 2020）、『第三共和国の誕生 ポーランドの体制転換一九八九年』（群像社、2020年）、『ポーランドのなかのウクライナ 歴史・現状・経済復興』（共著、群像社、2025年）。

<https://mstaguchi.wixsite.com/index>

加須屋明子（Akiko Kasuya） フォーラム・ポーランド副代表、京都市立芸術大学美術学部・大学院美術研究科教授



1963年兵庫県たつの市生まれ。京都大学大学院博士後期課程単取得満期退学（美学美術史学専攻）。ヤギェロン大学（クラクフ、ポーランド）哲学研究所美学研究室留学。国立国際美術館主任学芸員を経て、現在、京都市立芸術大学美術学部・大学院美術研究科教授。博士（文学）。専門は近・現代美術、美学。主な展覧会企画は「芸術と環境—エコロジーの視点から」1998年、「死の劇場—カントルへのオマージュ」2015年、「セレブレーション：日本ポーランド現代美術展」2019年など。2011年-2020年龍野アートプロジェクト芸術監督。2022年よりたつのアート実行委員会代表。主な著書『ポーランドの前衛美術——生き延びるための「応用ファンタジー」』（創元社、2014年）、『現代美術の場としてのポーランド—カントルからの継承と変容』（創元社、2021年）など。

<https://www.kcua.ac.jp/professors/kasuya-akiko/>

白木太一 (Taichi Shiraki) フォーラム・ポーランド副代表、大正大学名誉教授
(プログラムリーダー)



1959年東京生まれ。早稲田大学第一文学部西洋史専修卒業。早稲田大学大学院文学研究博士課程単位取得退学。1986~89年、ワルシャワ大学歴史研究所留学。文学博士。大正大学文学部歴史学科教授を経て、現在大正大学名誉教授。専門は近世ポーランド史。主要業績：『近世ポーランド「共和国」の再建—四年議会と五月三日憲法への道』(彩流社、2005年)、「近世ポーランドにおけるヘトマン(軍司令官)職—その社会的役割の変遷を中心に—」井内敏夫編『ヨーロッパ史におけるエリート』(太陽出版、2007年)、「聖職者イグナツィ・クラシツキと18世紀後半のヴァルミア司教区」『鴨台史学』第9号、2009年、『[新版]一七九一年五月三日憲法』(ポーランド史叢書2 群像社、2016年)、「18世紀後半から19世紀初頭のワルシャワの作曲家と音楽会活動—近代ポーランド市民音楽形成に関する基礎的考察—」『国民音楽の比較研究に向けて—音楽から地域を読み解く試み—』(京都大学地域統合センター、2015年)、『現代ポーランド音楽の100年—シマノフスキからペンデレツキまで—』(ダヌータ・グヴィズダランカ著、重川真紀氏との共訳)、音楽之友社、2023年)、『ポーランド・バルト史(山川セレクトション)』、(共著、山川出版社、2024年)、『ポーランドの歴史を知るための56章(第2版)』(共編著、明石書店、2024年)、『国民教育委員会—ヨーロッパ最初の「文部省」』(ポーランド史叢書10、群像社、2024年)。

平岩理恵 (Rie Hiraiwa) フォーラム・ポーランド事務局長、ポーランド広報文化センター
(プログラムリーダー、司会)



ポーランド語通訳・翻訳家。東京外国語大学大学院修士前期課程修了。ワルシャワ大学音楽学研究所に政府給費留学(2001~03年)。研究テーマはポーランドの舞曲およびスタニスワフ・モニューシュコ。訳書に『ショパン家のワルシャワ』(国立フリデリク・ショパン研究所)、絵本《ぼくショパン》シリーズ(同)、Curator's choice『フリデリク・ショパン博物館』(Scala Arts & Heritage)ほか、共訳書に『ショパン全書簡』(「ポーランド時代」および「パリ時代(上・下)」)。岩波書店)、編著に「ポーランド声楽曲選集第4巻『モニューシュコの家
庭愛唱歌集〈選〉』がある。フォーラム・ポーランド事務局長。2024年よりポーランド広報文化センター文化担当エキスパート。

小早川朗子（Tokiko Kobayakawa） フォーラム・ポーランド監事、ピアニスト、
桜美林大学教授 （プログラムリーダー）



東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校・同大学を経て、同大学大学院音楽研究科入学。ワルシャワ・ショパンアカデミーの研究生として2年間のポーランド留学の後、復学。修士課程ピアノ専攻首席修了、NTTドコモ賞受賞。その後同大学院博士後期課程に在籍し、博士号（音楽）取得。現在桜美林大学芸術文化学群音楽専修教授。ポーランド・アントニンにて、留学生のためのショパンピアノトーナメントでグランプリ、特別賞受賞。パリ国際マギンコンクールにて一位、およびジャーナリスト賞受賞。これまでに安田宏子、金子 園、足立和子、高良芳枝、角野 裕、クラウス・シルデ、多 美智子、ブロニスワヴァ・カヴァラの各氏に師事。大阪・東京、パリでのリサイタルの他に、ワルシャワ・ワジェンキ公園やショパンの生家でのショパンコンサートなどポーランド各地で演奏。ピアノ公開レッスンや公開講座などでポーランド語通訳を務める。アイエムシー音楽出版「はじめてのポーランド・ピアノ曲集 Vol.1,2」付属CD演奏。ハンナ社出版の「ポーランド声楽曲選集 第1-7巻」の編者。
<https://gproweb1.obirin.ac.jp/obuhp/KgApp?kyoinId=ogbgggyk>

参加申し込み方法

1. 参加登録

下記のGoogle Formからお申し込みください。*すでに参加登録は終了しています。

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfwoTFfbi7Qri9FvNCioYxXiFmf9mgYWILAROVIdrEJX8IDcA/viewform?usp=header>

または、フォーラム・ポーランドのホームページ「CONTACT」のページからお申し込み下さい。*すでに参加登録は終了しています。

<https://forumpoland.org/contact/>

お問い合わせ種別：その他

お問い合わせ内容：「会議参加を希望します。」とお書きください。

または、メールでお申し込みください。*すでに参加登録は終了しています。

メール宛先: forumpoland2025@gmail.com

件 名： フォーラム・ポーランド2025年会議参加申込

本 文： 会議参加を希望します。氏名（Name (例)Yamada, Ichiro）、所属・専門（任意）

- ・参加を申し込まれた方にはEメールで返信いたします。お申し込みは、80名に達した時点で締め切らせていただきます。
- ・メールには必ず返信します。48時間以内に返信がない場合には、恐れ入りますが再度CONTACTからメールをお送りいただくか、mstaguchi@gmail.comにご連絡ください。

2. 参加費振込

参加受付完了の返信がありましたら、下記のいずれかの方法で参加費を納入ください。なお、参加受付完了の返信を待たずして参加費を振り込まないで下さい。定員を超えた場合は、受付終了の返信をいたしますので、ご了承ください。

参加費3,000円は、会議前日までにお振り込みください。大学学部生、高校以下の学校生徒の方は参加費2,000円です（お弁当代が含まれます）。また、昼食（お弁当）が不必要な方は、参加費2,000円（学生等1,000円）です。ただし、大使館近辺に飲食店はほとんどないので、サンドイッチ、おにぎり等をお持ちください。お弁当付き参加を希望の方は11月10日（水）までにお申し込み、払込みをお願いいたします。

*お弁当は、実質2,000円相当の内容になります。ポーランド広報文化センターの補助により、個人負担は半額になります。予定ではおおよそ次の内容になりますが、当日は内容が若干変更になる場合があります： ひき肉カツレッツ(kotlet mielony)、ポテトパンケーキ(placki ziemniaczane)、キュウリのサラダ(mizeria)、ビーツの炒め物(buraczki

zasmażane)、ポーランド風パン(polski chleb)、ピーツバター(masło buraczane)、ペットボトルのお茶（ベジタリアンやその他の食事制限に対応いたします。ご要望があれば申し込みの際ご申告ください。）

クレジットカードで決済する

フォーラム・ポーランドのホームページ「BOOKS/DONATION」のページ下部の[寄付]をクリックします。

https://forumpoland.org/books_donation/

Syncableのページに移動しますので、画面のカード決済を選択し、寄付金額3,000円／2,000円（学生等2,000円／1,000円）を記入してカード情報を打ち込んで下さい。

なお、併せてご寄付もお願いしております。参加費を超える額をお振り込みいただきました場合は、参加費を超える額をご寄付として受領させていただきます。

口座に振り込む

下記の口座に参加費をお振り込みください：

三菱UFJ銀行岡山支店 口座名義：フォーラム・ポーランド 口座番号：（普）0573439

領収書が必要な場合は、会議当日受付でお声がけください。

なお、併せてご寄付もお願いしております。参加費を超える額をお振り込みいただきました場合は、参加費を超える額をご寄付として受領させていただきます。

その他

事前申し込みがないと大使館に入館できませんので、必ず事前申し込みを行ってください。当日はこちらで事前に登録した名簿で氏名の確認をさせていただきますが、大使館のセキュリティの関係上、必要に応じてスマホの返信メール等の確認をさせていただくことがあります。

会場：〒153-0062 東京都目黒区三田2丁目13-5 駐日ポーランド共和国大使館 地下1F



Google Map

フォーラム・ポーランドへのご寄付のお願い

フォーラム・ポーランドは、2022年9月にNPOから任意団体に変更され、それに伴い、賛助会員制度も廃止されました。今後はご寄付のみによって運営されます。

現在、ホームページの作成等により、数十万円の赤字の状態で出発しています。大変厳しい財政状況ですので、皆様のご支援を是非よろしくお願いいたします。

今後の活動としては、引き続き毎年学際的なテーマで会議を行うとともに、会議録、ポーランド文学古典叢書、ポーランド史叢書、ポーランド声楽曲選集等を編纂、発行していく予定です。また、ホームページを通じて積極的に情報を提供していくと同時に、ポーランド関係諸団体との有機的なネットワークを構築してまいります。将来的には、ポーランド関係データベースの拡張、ポーランド図書館の設立、翻訳、通訳サポートの拡充などを図って行きたいと考えており、そのために書籍販売や寄付を募る活動を推進していきたいと思っております。当面、100万円を目標に寄付を募っています。

ご寄付にあたっては、ホームページからカード決済することにより、いつでも気軽に寄付をし、フォーラム・ポーランドの活動を支援することができます。もちろん、銀行振込も受け付けております。

皆様の暖かいご支援をよろしくお願いいたします。

クレジットカードで決済する

フォーラム・ポーランドのホームページ「BOOKS/DONATION」のページ下部の[寄付]をクリックします。

https://forumpoland.org/books_donation/

Syncableのページに移動しますので、画面のカード決済を選択し、任意の寄付金額を選択してカード情報を打ち込んで下さい。カード決済は、1回につき1,000円から50,000円の範囲でご寄付額をお選びいただけます。1回につき50,000円を超えるご寄付は、銀行口座にお振り込みをお願いしております。

銀行口座に振り込む

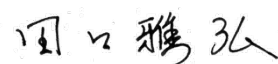
下記の口座に参加費をお振り込みください：

三菱UFJ銀行岡山支店 口座名義：フォーラム・ポーランド 口座番号：（普）0573439

注意：

- カード決済のご寄付は、1回につき50,000円までです。1回につき50,000円を超えるご寄付は、お手数ですが銀行口座にお振り込みいただくか、カード決済の場合は数回に分けてお振込みください： 三菱UFJ銀行岡山支店 口座名：フォーラム・ポーランド （普）0573439
- 大変申し訳ありませんが、フォーラム・ポーランドへのご寄付は税金控除の対象ではありません。
- 寄付口座はフォーラム・ポーランド2023年会議と同じ口座になります。会議の期日までにご寄付いただく場合、または会議参加費と一緒にご寄付いただく場合などは、大変お手数ですが、ご寄付の旨、フォーラム・ポーランドのホームページ「CONTACT」のページからご一報いただけると幸いです。

<https://forumpoland.org/contact/>



フォーラム・ポーランド代表

<https://forumpoland.org/>

Konferencja "Forum Polska" 2025

**W perspektywie 100. rocznicy Międzynarodowego
Konkursu Pianistycznego im. Fryderyka Chopina**

P R O G R A M

Data: Sobota, 22 listopada, godz. 9:30–15:40

Temat: W perspektywie 100. rocznicy Międzynarodowego Konkursu Pianistycznego
im. Fryderyka Chopina

Miejsce: Sala im. Tadeusza Romera, Ambasada RP w Tokio

Organizator: Forum Polska

Współorganizatorzy: Ambasada RP, Instytut Polski w Tokio.

9:10 Otwarcie drzwi

Otwarcie konferencji (9:30–9:50)

9:30 – 9:35 Wystąpienie Wice-przewodniczącego Forum Polska Taichi Shiraki (prof.
emeritus Taisho University)

9:35 – 9:45 Wystąpienie powitalne Pawła Milewskiego, Ambasadora Rzeczypospolitej
Polskiej w Japonii

9:45 – 9:50 Wspólne zdjęcie

Sesja przedpołudniowa (9:50–11:30)

9:50 - 10:40 Izumiko Aoyagi (pianistka, pisarka, emerytowana profesor Uniwersytetu
Muzycznego w Osace) - „Relacja z Międzynarodowego Konkursu
Pianistycznego im. Fryderyka Chopina 2025”

10:40 - 11:30 Junichi Tada (wizytujący pracownik naukowy Centrum Badań nad Tradycyjną
Muzyką Japońską Uniwersytetu Sztuki w Kioto) - „Odbiór Chopina w Japonii –
jak relacjonowano pierwsze konkursy chopinowskie w Japonii”

11:30 - 12:40 lunch

Sesja popołudniowa (12:40-15:30)

12:40 - 13:40 Satoshi Iijima (pianista, muzykolog) - „Ponowne rozważania na temat tempa rubato w
interpretacji utworów Chopina – wokół interpretacji „zgodnie z nutami” –”

13:40 - 14:40 Shoko Kusuhara (pianistka, wykładowczyni na Wydziale Muzycznym Uniwersytetu
Toho Gakuen) - „Mazurki Chopina – od poszukiwania istoty utworów do grania własnych
mazurków”

14:40 - 15:00 przerwa

Pokaz tańca „Tokio na zdrowie” (15:00-15:20)

Walc, Krakowiak, Mazur

15:20 - 15:30 Wystąpienie końcowe Dyrektor Instytutu Polskiego w Tokio Urszuli
Osmyckiej